

# 10 大地の芸術祭実行委員会

新潟県 十日町市 津南町



## 大地の芸術祭の里

該当  
カテゴリー

自然・景観

観光

その他  
(アートによる  
地域活性化)



古民家を再生した農家レストラン



棚田を題材にした作品



地域特産物とアートのコラボ

### 概要

- アートを通じて地域の魅力を掘り起こし地域再生につなげる「大地の芸術祭の里」を実施
- 地域住民が地域外の人と一緒に作品を制作し、里山や集落、住宅地など広域に展開
- 出資のほか農作業体験など棚田のオーナー制により、棚田を維持管理

### 成果

- 参加集落が92集落から110集落と増加(H21-27)、展示作品数も年々増加するなど地域密着型の取組に成長
- 芸術祭会期中の作品訪問者数が延べ約37万人から約51万人と増加(H21-27)
- 芸術祭がきっかけとなって、平成27年までに16人以上の若者が移住

# 11 シーフードカンパニー能水商店

新潟県 糸魚川市



## 高校生水産会社で6次産業化にチャレンジ

該当  
カテゴリー

学校・企業

6次産業化

子ども  
(教育・体験)



魚醤の輸出に向けた海外での市場調査



高校生が開発した魚醤



市外イベントへ出展

### 概要

- 起業者精神育成教育を推進するために海洋高校同窓会と糸魚川市が連携し設立
- 地域水産資源を利用した水産加工品の研究開発、製造販売に海洋高校生が製造部及びマーケティング部の業務に関わり
- イクラを取り除いた後、廃棄されていた魚体を活用して魚醤を開発・販売

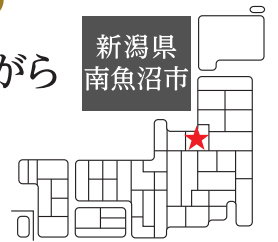
### 成果

- 魚醤の販売数が約2千本から約1万6千本と約8倍増加(H26-27)
- 魚醤の需要の高まりにより、高校生のみでは事業運営ができなくなり、4人のパート従業員を雇用
- 海洋高校生がイベントや小売業者、飲食店に営業を行いソーシャルスキルの向上と起業者精神を向上

# 特定非営利活動法人 南魚沼もてなしの郷

魚沼産コシヒカリのど真ん中で、選別作業の実演を見ながら  
農家の苦勞を学びながら、お米文化をまるごと体験

新潟県  
南魚沼市



該当カテゴリー → 「食」の提供・活用   インバウンド   子ども (教育・体験)



宿場町を再現した塩沢宿牧之通り



外国人ツアーによる餅つきの様子



お米食べ比べ体験の様子

## 概要

- ◆ おにぎり、甘酒、和菓子の店舗を巡る「塩沢宿もてなし手形」を企画し、旅行会社へ販売。
- ◆ お米の選別や食べ比べ、餅つき体験などの郷土料理体験をメニュー化。
- ◆ 玄米食体験として郷土料理「けんさん焼き」をアンテナショップで販売。

## 成果

- 魚沼産コシヒカリ発祥の地としての知名度向上。
- 「塩沢宿もてなし手形」は年間3万人が利用。
- 外国人旅行者数が50人から150人に増加(H24-H28)。
- 観光客の滞在時間が増加し、地域の土産物店等の売上が向上。

# 株式会社 岩の原葡萄園

い わ の は ら ぶ ど う え ん



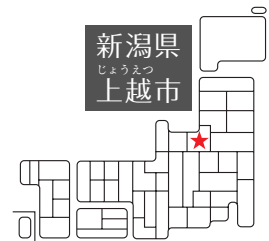
小学生による善兵衛学習ぶどう栽培作業

ビジネス部門

教育機関との連携

農福連携

その他（新しい園芸産地づくり）

〒 943-0412 新潟県上越市大字  
北方 1223 番地

tel 025-528-4002

fax 025-528-3530

mail mail@iwanohara.sgn.ne.jp



水田から根圏制限栽培法ぶどう畑に転作

## 概要

- ◆ ぶどう産地協議会を設立し、労働力不足の解消や低コスト生産のための規模拡大に取り組む。
- ◆ H28 年度より、ぶどうの栽培作業の分解・単純化を図り、障がい者雇用に取り組む。



農福連携ぶどうの幼木回りの除草作業

## 成果

- ◆ ワインの売上は、3.9 億円から約 4.3 億円に増加（H26～H30）した他、製造した赤ワインが G20 大阪サミットで使用された。
- ◆ 地元醸造用ぶどう栽培面積の拡大に伴い、新たに 2 名の担い手を創出。
- ◆ H30 年度にはぶどう栽培作業での農福連携の延べ人数は 54 名まで増加。

こやなぎ しげる  
小柳 繁

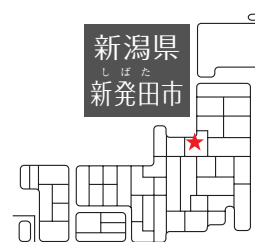


集会場前で撮った元気の良い上三光集落の参加者

個人部門

環境保全

農村文化体験



〒 957-0331 新潟県新発田市  
上三光 793-3

上三光清流の会 小柳 繁

tel 090-5434-3185

mail 0808kanoz@gmail.com



田植え体験の前に撮った一般の参加者



耕作放棄地で栽培した地元産蕎麦を楽しむ

## 概要

- ◆ 地域資源を宝と捉え農業体験活動に取り組み、耕作放棄地の有効利用、獣害対策、集落再生と地域活性化を目指す。
- ◆ GIS を活用した集落環境診断など、集落再生に向けた様々な取組を実施。

## 成果

- ◆ 田植えや稲刈り体験の他、柿酢作り、正月飾りなど集落資源を活用したイベントには、約 200 人が参加（令和元年度）。
- ◆ ビオトープへの再生などにより、耕作放棄地の解消面積は、0.4ha(平成 27 年度)から 4.5ha（令和元年度）に年々増加。

# あがの衆<sup>しゅう</sup>

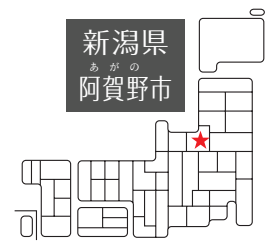


阿賀野市の食の匠集団「あがの衆」

ビジネス部門

6次産業化

企業との連携



〒959-1961 新潟県阿賀野市山倉  
1912-1 (株)佐藤食肉(内)  
代表 佐藤広国

tel 0250-63-8086

fax 0250-63-1348

mail hirokuni.satou@sato-shokuniku.com



隔月開催の飲食店への生産者見学ツアー



あがの風土キャラバン

## 概要

- ◆ 若手の経営者と農家が、それぞれの経営資源を連携することで、お互いの課題解決を図り、地域振興。
- ◆ 地元農家等による「あがの風土キャラバン」と連携し、都市住民が参加するイベントにおける地元ブランドの提供や田植え体験等を開催。

## 成果

- ◆ 開発したブランド牛「あがの姫牛」は、コロナ禍においても売上が増加し、5,000万円（平成28年）から1億8,000万円（令和元年）に増加。
- ◆ 県内の飲食店を対象として、あがの姫牛を含めた阿賀野の農業・酪農PRを目的に体験ツアーを実施し、800人が参加（令和元年度）。

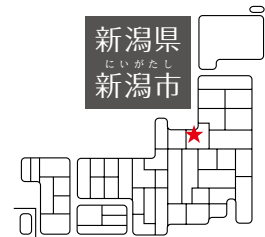
# 株式会社 しろがね 白銀カルチャー



自動運転トラクターの作業見学会

ビジネス部門

スマート農業

〒956-0826 新潟県新潟市  
秋葉区岡田 370

tel 0250-21-7170

fax 0250-21-7171

mail shirogane@lime.ocn.ne.jp



自動給水栓とドローンで定型作業を省力化



自動選別機を導入し高品質な枝豆を出荷

## 概要

- ◆ スマート農業により水稻生産を効率化し高収益作物を導入、若者の雇用を促進、地域を活性化。
- ◆ ICT 機器を積極的に導入し、効率化により生まれた余剰労働力を高収益な園芸作物等に振り向ける高収益型水田農業を実践。

## 成果

- ◆ 水稻の 10a 当たり労働時間は 20.5 時間（地域平均）から 7.9 時間（令和2年度）に約6割減少。枝豆、カリフラワー等の作付面積を増加。
- ◆ 水稻主体から多様な作物を導入することにより、売上高は1億 2,500 万円（平成 28 年度）から1億 6,200 万円（令和2年度）に着実に増加。

つきかげ さと

# 月影の郷運営委員会

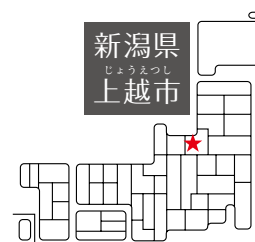


廃校を再生した宿泊体験交流施設 月影の郷

コミュニティ部門

農村文化体験

若者の活躍



〒942-0322 新潟県上越市  
浦川原区横住 410 番地

tel 025-599-3302

fax 025-599-3302

mail info@tsukikage.net



「チャレンジ!さんばいし投げ」競技の様子



さんばいし (棧俵)

## 概要

- ◆「宿泊・体験・交流」を目的に、廃校施設に学校関係や会社等を広く受け入れ活動を実施。
- ◆建築系4大学が共同で廃校再生計画を提案。市から指定管理の許可を受け、田舎体験メニューの提供、都市住民との交流等を実施。

## 成果

- ◆廃校活用の知名度が上がり、口コミでのリピーターにより年々利用者が増加。令和元年度には年間7,000人超に。
- ◆コロナにより宿泊者等は減少したが、3密対策を実施しながら、ドローン講習会や小学校の総合学習の受け入れ等を実施。



詳細は団体のHPから ➡

えぬびーおーほうじん

## NPO 法人

えちごつまりさとやまきょうどうきこう

## 越後妻有里山協働機構



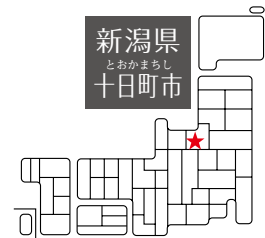
地元の方に指導してもらい田植えをする

コミュニティ・地産地消部門

農村環境・景観保全

スポーツとの連携

デジタル化

〒942-1526 新潟県十日町市  
松代 3743-1 まつだい「農舞台」内

tel 025-595-6180



ドローンを利用した農薬散布



稲刈りイベント参加者との記念撮影



- ◆ 新たなライフスタイルの提案、女子サッカー選手など多様な人材による棚田保全、アートによる地域活性化に寄与。
- ◆ ドローン、水位センサー等のスマート農業の導入により作業負担の軽減。棚田オーナー制度で都市部と地元住民の交流の機会を展開。



- ◆ 全国リーグを目指す女子サッカーチーム「FC 越後妻有」をつくり、女子サッカー選手が農業の担い手となる一方で、サッカー教室や講演を実施し多数のメディアに掲載され活性化に寄与。
- ◆ 会員口数は 774 口（平成 29 年度）から 919 口（令和 3 年度）に増加。



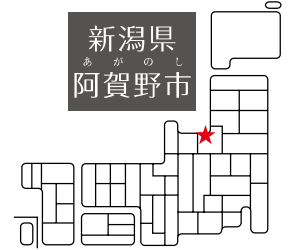
詳細は団体の HP から ➡



# は ち べ い は ち べ い は ち べ い

# 八米 (HACHIBEI)

新潟県  
あがのし  
阿賀野市



ビジネス・  
イノベーション部門

農業

農福連携

農村環境・景観保全



障がい福祉施設によるハチミツ商品製造



蜜源となるれんげ畑



田植えイベント

## 概要

◆ 農業に敏感な蜜蜂の生態系を守るため、養蜂と水稲での事業を平成 27 年にスタート。農福連携や耕作放棄地の活用、保育園や学校、寺社や林業との連携を行い、蜜源再生・景観保全・観光振興を同時に実現させる八米お花畑プロジェクトとして「持続的な自然の維持と共に地域社会を創造する」という理念の下、里山の維持と共に地域づくりに取り組む。

◆ 耕作放棄地を蜜蜂の餌資源となる蜜源植物の栽培に活用。作業には障がい福祉作業所、保育園児、大学生が参加。栽培した春の菜の花、夏の花マワリ、秋のコスモスにより訪花昆虫が増加。あわせて SNS を活用したフォトコンテスト（令和 7 年で 5 回目）を開催。

## 成果

◆ フォトコンテストへの応募作品は年々増加傾向。これによりお花畑への観光客数が増加。令和 6 年には、3,000 人が訪れた。

◆ 肥料や蜜源として活用し、稲の栽培期間中は葉面散布にてはちみつを施肥する八米はちみつ農法で独自性のある米作りを行い、ふるさと納税含め売り上げ急拡大中。令和 7 年には、ハチミツとお米を合わせて、約 2,000 万円を売り上げた。収穫したハチミツやお米は、障がい福祉作業所で瓶詰や袋詰などの加工を行い商品化。これにより農家の人手不足の解消と就労支援を同時に実現。

八米 (HACHIBEI) 〒959-2024 新潟県阿賀野市中島町11-20

25 tel 025-246-0800 fax 025-246-0810 mail info@hachi-bei.com

詳細は団体の HP から ➡

